

## 第42回 令和7年6月13日（金）

日本の出生数がついに70万人を割りました。これはかなり衝撃的な数字で、10年後には全国の小学校の4割が廃校になると推測されています。その世代が親になれば出生数はさらに下がりますので日本という国そのものが成り立たなくなる危険性もあります。

少子化がどれくらいの勢いで進んでいるのか、川和高校にいると実感できないかもしれません。県立高校によっては募集定員の半分しか受検生が集まらない学校もあります。

部活動が競技人数に達せずに成立しないことをはじめ、1クラスも20名程度で学校行事も寂しくなります。

10年後には川和高校に進学してくる中学生も、やりたかった部活動が中学校に存在しなかったという生徒が増えることが大いに考えられます。部活動の地域移行が進み始めていますが、学校単位で競技を存続させることはますます厳しくなっていくに違いありません。

子どもが減るということは生産年齢人口が減るということで、企業は人手不足倒産が増えるでしょうし、税収が減ってしまえば社会保障も継続が難しくなり高齢者医療費の自己負担額も増加していくことが考えられます。将来高齢者医療はAIが担う時代になるかもしれません。

2049年には10人に1人が外国籍を持っているという予測もあります。私は外国籍の方が多い地域の学校で働いていました。彼らの教育はまだ課題がたくさんあります。でもいましっかり整備しておかないと、彼らが親世代になったときに教育環境はさらに悪化するでしょう。

中国、韓国も少子化が進んでいる国なので、南北アメリカやアフリカ、インドあたりに人口が集中することになります。日本にも海外資本が大量に投入されることになると思います。かつてODAで日本が世界に出資していた構図と逆のことが起きるのではないかでしょうか。

水道や道路などのインフラも老朽化したものすべて改修することは難しくなります。コンパクトシティ化で人口は一部の都市に集中することになると思います。

人口減少による課題はたくさんあります。しかし産業革命前の人口に戻るだけだという見方できます。便利に慣れすぎている現代人には苦しいことかもしれません、かつてはそれで社会が成り立っていたということも事実です。歴史を見直すことも解決策の一つかもしれません。

予想より早く、加速化して人口減少は進んでいます。高齢者が健康で長く働けるようにすることや、AI、ロボットの導入による仕事の軽減化など、できる手段はすべて今から取り組まないといけません。課題は山積しています。